

●施工事例ー3 コンクリート法枠内の緑化



施工前法面状況（コンクリート法枠施工法面）



法枠内緑化により全面緑化（施工後15年）

●施工事例ー4 高所施工システム（ポンプ圧送方式）による緑化



ネッコチップ工法施工状況



植生状況（施工後4か月）

●施工事例ー5 大規模道路法面の緑化



緑化対象面積18万㎡のうち8割の15万㎡をネッコチップ工法で施工

受賞歴

●R3年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰国土交通大臣賞

# ネッコチップ工法

ネッコチップ工法は、伐採木を粉砕した生のチップ材と現地発生土（表土）を生育基盤の材料としてリサイクルするとともに、現地発生表土に含まれる種子や根茎により、在来植生を復元し、生態系の保全と植生の多様化を可能にした緑化工法です。

概要

現場で発生する伐採材などを針状に粉砕処理したチップ材と現地発生土（表土）を混合し、高速ベルトコンベアにより法面に撒きだし、在来植生の復元とリサイクルを可能にした緑化工法です。チップ材は生のまま15cm程度の大きなものでも使用できます。表土を含む現地発生土は植生に適した土壌となり、在来植生の復元に大きく貢献し、長期的に劣化しない安定した生育基盤を造成します。



特長

<p><b>生態系の保全</b></p> <p>現地発生表土の利用による在来植生の復元、植生の多様化、生態系の保全が可能</p>	<p><b>安定した生育基盤の造成</b></p> <p>無機質を主体とした土壌を材料として用いるため、長期的に安定した生育基盤の造成が可能</p>	<p><b>コスト低減</b></p> <p>建設副産物の発生量の抑制とリサイクルによるコスト低減が可能</p>	<p><b>表土の有効利用</b></p> <p>大きな生のチップ材を生育基盤材料として利用でき、従来使用が困難であった表土や表土に含まれる根茎、粘土分を多く含んだ土なども有効利用が可能</p>	<p><b>効率的で経済的な施工</b></p> <p>専用プラント・高速ベルトコンベアを用いた機械化システムにより、効率的で経済的な施工が可能</p>
--	--	--	---	--

## 適用範囲

長期的に安定した法面において、在来種による植生の復元・景観の維持や植物の生育に伴う侵食防止効果を必要とする法面に適用します。一般の切土法面や盛土法面に適用でき、岩盤や肥料および土壌のない無土壌法面など広範囲で適用が可能です。

標準吹付厚 : 5~7cm

適用法面勾配 : 1:0.5より緩い勾配に適用

緑化基礎工 : 法面勾配が1:1.5より緩い勾配ではラス金網張り不要

## 高所施工システム

### 高所多段法面への適用（高所施工システム）

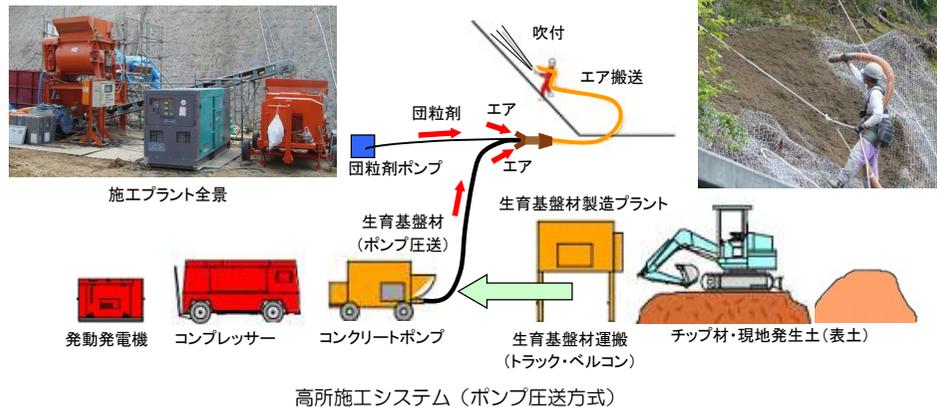
施工範囲 ロングアーム方式（ベースマシン：バックホウ） 法面2段  
クレーン方式（ベースマシン：クレーン） 法高30m（50 t クレーン使用時）  
ポンプ圧送方式（コンクリートポンプ） 法高60m



高所施工システム（ロングアーム方式）



高所施工システム（クレーン方式）



## 表土の利用

在来植生の復元、植生の多様化、生態系の保全には、表土利用が不可欠です。ネッコチップ工法では、無機質の土壌である現地発生土と表土を主要材料として使用し、従来の有機物主体の生育基盤のように劣化・分解消滅することなく、長期的に安定した生育基盤が造成できます。



表土を含む現地発生土の採取

## 標準材料配合

### 生育基盤材料標準配合（1 m<sup>3</sup>当たり）

項目	仕様	単位	数量
現地発生土（表土）	異物除去	m <sup>3</sup>	0.5
チップ材	撒きだし方式 長さ15cm以下 ポンプ圧送方式 長さ10cm以下	〃	0.5
団粒剤	NCボンドA	kg	3.0 (6.0)
接合剤	NCボンドB	〃	4.0
肥料	緩効性肥料	〃	2.0
	化成肥料	〃	3.0
水		ℓ	200~600

注：（ ）内はポンプ圧送方式の場合の数量

表土を使用する場合には、原則として種子を配合しません。（種子無配合）

## 施工事例

### ●施工事例ー1 表土利用による法面緑化（種子無配合）



施工状況（標準施工システム）



法面の植生状況（施工後3年）



現地発生表土に含まれる種子（在来種）からの植物の成立

### ●施工事例ー2 表土利用による法面緑化（種子無配合）



法面植生状況（施工後3年）



施工後13年 埋土種子・飛来種子の発芽定着（ミスナラ・シラカバ）